

令和7年度

運営に関する計画

【中間評価】

大阪市立野田小学校

令和7年10月

＜中期目標の達成に向けた年度目標＞

【安全・安心な教育の推進】

◎ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないと思う」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
【R5:84%、R6:79%】

◎ 校内調査における「健康・安全にすごすために、きまりやルールを守っている」に対して、肯定的な「当てはまる」と答えた児童の割合を98%以上にする。
【R5: 90%、R6:97%】

◎ 校内調査における「学級や学校は、安全で居心地の良い場になっている」に対して、肯定的に回答する児童・保護者の割合の平均（※①）を前年度以上にするとともに、最も肯定的な回答の割合（※②）について、児童・保護者とも前年度より向上させる。

※①【児童…R5:96%、R6:94%】【保護者…R5:96%、R6:94%】
【平均…R5:96%、R6:94%】

※②【児童…R5:71%、R6:64%】【保護者…R5:48%、R6:55%】

◎ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上とする。
【R5:78%、R6:81%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

◎ 小学校学力経年調査における、国語・算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度よりも減少させる。
【正答率50%未満の児童の人数】

国語科	4年生	5年生	6年生
令和5年度		3人	4人
令和6年度	18人	0人	0人
令和7年度			

算数科	4年生	5年生	6年生
令和5年度		3人	6人
令和6年度	9人	3人	11人
令和7年度			

◎ 校内調査における「自分で学習内容や学習方法を決めたり、選んだりしたことがある」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。
【R5:90%、R6:87%】

◎ 小学校学力経年調査における、「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上にする。
【R5:50%、R6:45%】

◎ 小学校学力経年調査における「運動（体を使う遊びを含む）やスポーツをすることが好き」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を74%以上にする。
【R5:71%、R6:73%】

◎ 校内調査における「病気にならないように、しっかり手洗い・正しいマスクの着用をするようにしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上に保てるようする。
【R5:95%、R6:95%】

◎ 校内調査における「苦手なものでも、給食で食べるようがんばっている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上に保てるようする。
【R5:91%、R6:92%】

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、教育委員会事務局が定める学校行事等をICT活用が適さない日数を除く)
【R5:0%、R6:0.54%】
- ストレスチェックにおける総合健康リスクの数値を昨年度より減少させる。
【R5:131、R6:122】
- 教職員アンケート「授業研究や学力向上支援事業等、さまざまな研修を通じて教師としての成長を感じるか」において、肯定的な回答の割合を前年度より向上させる。
【R6:90%】
- 校内調査において「学校は、子どもたちが安全で安心して学ぶことができるような教育環境づくりに努めていると思う」の項目において、肯定的な回答の割合について前年度以上にする。
【R5:98%、R6:96%】

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市立野田小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>◎ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないと思う」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を<u>80%以上</u>にする。 【R5:84%、R6:79%】</p> <p>○ 校内調査における「健康・安全にすごすために、きまりやルールを守っている」に対して、肯定的な「当てはまる」と答えた児童の割合を<u>98%以上</u>にする。 【R5: 90%、R6:97%】</p> <p>○ 校内調査における「学級や学校は、安全で居心地の良い場になっている」に対して、肯定的に回答する児童・保護者の割合の平均（※①）を前年度以上にするとともに、最も肯定的な回答の割合（※②）について、児童・保護者とも前年度より向上させる。</p> <p>※①【児童…R5:96%、R6:94%】【保護者…R5:96%、R6:94%】 【平均…R5:96%、R6:94%】</p> <p>※②【児童…R5:71%、R6:64%】【保護者…R5:48%、R6:55%】</p> <p>◎ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を<u>82%以上</u>とする。 【R5:78%、R6:81%】</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 日々の教育活動において、常にいじめに対する意識を高めていく。日頃から子どもの人間関係を見取り、丁寧に聞き取りを行う。いじめや人権について考える機会や場を設けたり、学級集団づくり（ボードゲームやPA（プロジェクトアドベンチャー）活動など）を行い、子ども同士の繋がりをつくったりして、安心・安全な場を設けていく。 ○ Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）の実施やスクールライフの相談機能活用を通して、児童の実態把握、いじめの早期発見・早期対応に努める。 ○ いじめ対策委員会（生活指導連絡会）で児童の状況を情報共有し、組織的な指導を充実させる。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ○ 「いじめ・いのちを考える週間」は、学期に1回（年3回）に拡充して実施し、併せていじめアンケートも実施する。学級集団づくり（ボードゲームやPA（プロジェクトアドベンチャー）活動など）を学期に1回以上行う。 ○ Q-Uは、6月と12月の年2回実施する。スクールライフノートの相談機能を活用していくよう、適宜声かけを行う。 ○ いじめ対策委員会（生活指導連絡会）は月1回をベースに定期開催する。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「いじめ・いのちを考える週間」では、校長が全校朝会でいじめについての講話を行った。 ○ PAやボードゲームの活用もあり、学級集団づくりに活かせているように思う。また、Q-Uの実施やスクールライフノートの活用により児童の実態把握にもつながっている。 ○ ボードゲームを適宜活用して、児童間のコミュニケーションが深まるような時間を作ることができている。 ○ いじめ対策委員会は、月1回実施され、必要に応じて臨時で開催されることもあった。 ○ 必要と判断したケースにおいて、迅速にいじめ対策委員会を実施して、組織的な指導の充実を図ることができている。 	
後期への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 前期同様に指標に示した項目など、引き続き取り組んでいく。特に2学期は、児童が学校にいることが多い学期なので、ボードゲームやPA、Q-Uの実施、スクールライフノートの活用で学級集団の傾向を早期に把握するとともに、その都度学年や担外、管理職などで共有していく。 ○ 来年度以降は、学校アンケートの「クラスのみんなと遊ぶのが楽しい」の項目を指標にしてもよいのではないか。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活指導連絡会において、学年・学校全体の規則を守ることについて課題を確認し、生活指導部員を中心に、組織的に児童の指導に当たる。 ○ 生活目標に合わせて「礼儀」「規則の尊重」に関する指導や授業を道徳の時間に実施したり、「あいさつ」や「廊下安全歩行」の強調週間を年2回以上実施したりし、児童の規範意識を高める。 ○ 看護当番からの話や学級・学年指導で、ルールを守ることの意味や必要性を考えられる言葉がけをし、ルールの内在化を図る。 	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活指導連絡会を月に1回程度行う。 ○ 「あいさつ」「廊下階段安全歩行」の強調週間を学期に1回以上実施する。 ○ 校内調査における「見守り隊の人や先生や友達に、自分からすすんであいさつしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 【R6:91%】 ○ 生活指導連絡会で話した内容を児童朝会で看護当番から指導する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活指導連絡会が定期的に行われたことで、学年の課題を学校全体で共有することができた。 ○ 右側を歩こう週間、「あいさつし隊」の強調週間を実施したこと、児童に意識付けをすることができた。 ○ 朝会での校長や当番の教員からの講話、代表委員会の「スマイル言葉」の呼びかけを行うことで児童の気持ちに働きかけることができた。 ○ 朝のあいさつはよくできている。 ○ 給食の返却時に、廊下を走る児童の数が4月当初よりは減少している。 ○ 右側歩行の大切さについては児童に浸透してきているが、行動に十分つながっているとは言えない。 	
後期への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 右側歩行を呼びかけるポスターを一新する。 ○ あいさつの具体的な方法を呼びかける。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 異年齢集団との交流や価値観の多様性に触れる機会を通して、児童の人権意識の涵養を図るとともに、自己肯定感を高めるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・たてわり班での活動の拡充を模索し、高学年から低学年まで協力して一緒に何かを成し遂げたり遊んだりする場を設ける。 ・集団的宿泊行事や芸術に親しむ体験などを通して、より良い人間関係の形成や心身の健康など、児童の道徳性を養う。 ○ ルール(集団で安心して生活するための基本的きまり)とリレーション(安心して本音が言い合えるように人間関係)のバランスが取れた親和的な人間関係のある集団づくりをすすめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・Q-Uによるアセスメントを活用し、学級集団の傾向を早期に把握するとともに、分析結果をより良い学級集団づくりに生かす。 ・学級活動等でボードゲームやPA活動を積極的に取り入れ、子ども相互の信頼関係づくりを促進する。 ○ 人権研修の参加や、学校全体での児童理解の場面を設定し、教職員の人権意識を高めていく。(人権実践教育の発表や、分科会の参加など) 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間 20 回以上の縦割り班活動を行う。 ○ 集団的宿泊行事（5 年自然体験学習、6 年修学旅行）、及び芸術鑑賞会を計画・実施する。 ○ Q-U を年 2 回実施し、学級集団の傾向を早期に把握するとともに、分析結果をより良い学級集団づくりに生かせるように、専門家を招聘した研修を実施する。 ○ 特別支援教育全体会や配慮を要する児童の共通理解の場を年に上半期に 1 回、下半期に 1 回、計 2 回実施する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ○ たてわり班活動を予定通り行うことができておらず、異学年交流も十分に実施できている。 ○ ボードゲームも日常的に活用する学級が多い。 ○ 宿泊行事（5・6 年ともに）を無事実施することができた。 ○ 芸術鑑賞会は 11 月 17 日に実施予定である。 ○ Q-U の結果は全国平均と比べて高水準で、PA やボードゲームの活用も各学級で継続的に実施されている。Q-U の 2 回目は 12 月ごろに実施予定である。 ○ 特別支援教育全体会など予定通り実施できている。2 回目は 2 月下旬ごろに実施予定である。 ○ 大阪市人権・同和教育研究大会に教員 3 人が参加し、資料冊子を全職員で通読・共通理解することができた。 	
後期への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ○ たてわり班活動に関して、全学年交流でなく、低・中・高学年やきょうだい学年などの実施も検討する。 ○ Q-U を活用する場面が少ないように感じるため、夏季休業中だけでなく、年間を通して研修などを実施し、集団育成の方法や個別の事案への対応方法などを考えていく。 	

大阪市立野田小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況																
【未来を切り拓く学力・体力の向上】																	
① 小学校学力経年調査における、 <u>国語・算数の学力に課題の見られる児童の割合</u> を、同一母集団において経年的に比較し、 <u>いずれの学年も前年度よりも減少</u> させる。																	
【正答率50%未満の児童の人数】																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>国語科</th><th>4年生</th><th>5年生</th><th>6年生</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td><td></td><td>3人</td><td>4人</td></tr> <tr> <td>令和6年度</td><td>18人</td><td>0人</td><td>0人</td></tr> <tr> <td>令和7年度</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	国語科	4年生	5年生	6年生	令和5年度		3人	4人	令和6年度	18人	0人	0人	令和7年度				
国語科	4年生	5年生	6年生														
令和5年度		3人	4人														
令和6年度	18人	0人	0人														
令和7年度																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>算数科</th><th>4年生</th><th>5年生</th><th>6年生</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td><td></td><td>3人</td><td>6人</td></tr> <tr> <td>令和6年度</td><td>9人</td><td>3人</td><td>11人</td></tr> <tr> <td>令和7年度</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	算数科	4年生	5年生	6年生	令和5年度		3人	6人	令和6年度	9人	3人	11人	令和7年度				
算数科	4年生	5年生	6年生														
令和5年度		3人	6人														
令和6年度	9人	3人	11人														
令和7年度																	
○ 校内調査における「自分で学習内容や学習方法を決めたり、選んだりしたことがある」に対して、 <u>肯定的な回答をする児童の割合を90%以上</u> にする。 【R5:90%、R6:87%】																	
○ 小学校学力経年調査における、「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、 <u>最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上</u> にする。 【R5:50%、R6:45%】																	
○ 小学校学力経年調査における「運動（体を使う遊びを含む）やスポーツをすることが好き」に対して、 <u>最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を74%以上</u> にする。 【R5:71%、R6:73%】																	
○ 校内調査における「病気にならないように、しっかり手洗い・正しいマスクの着用をするようにしている」に対して、 <u>肯定的に回答する児童の割合を90%以上</u> 保てるようとする。 【R5:95%、R6:95%】																	
○ 校内調査における「苦手なものでも、給食で食べるようがんばっている」に対して、 <u>肯定的に回答する児童の割合を90%以上</u> 保てるようとする。 【R5:91%、R6:92%】																	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容④【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての児童が基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得できるようにし、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・研究にも対応させ、対話的活動の継続と深まりを生み出す授業づくり ・振り返りの継続と質的な向上（学習内容の振り返り＋学習方法の振り返り） ○ 児童一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等を柔軟な提供・設定を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・学力低位層への支援 ・児童の学びを見取る場の設定や見取る技術の共有（記録に残す） ○ 各学年において、自主学習を計画的に取り組み、主体的に学習に取り組む態度の養成し、学習習慣の定着を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・自主学習ノートを共有する場をつくる ・児童に任せる部分や時間を増やし、児童の主体性につなげる。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校内調査における「授業では、自分から進んで学習に取り組んでいる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より向上させる。 【R5:89%、R6:87%】 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ○ めあて（学習問題）をつくり、その解決に向けて子どもが主体的・対話的に調べたり、考えたりして、まとめたり振り返ったりする問題解決的な学習を進めることができている。 ○ 振り返りの視点については学校全体で統一はされていないが、各学年・学級に応じた方法で行われている。 ○ 振り返りの時間を設定することが難しく短時間になりがちなので、児童は自分自身の振り返りを十分に行うことができていない。 ○ 各学年、児童の実態に合わせた指導方法・教材や学習時間等を柔軟な提供・設定を行い、学力低位層の支援や自分に合った学び方を見つけることができるようとした。 ○ 各学年で自主学習への意欲を高める工夫を行ったり、自主学習ノートを玄関ロビーに掲示したりしている。その結果、他の児童や他の学年への良い刺激になっており、また掲示された児童の意欲向上にも繋がっている。【中間アンケート 87.5%】 	

後期への改善点

- 学習内容についての振り返りは主流だが、「学習方法」の振り返りについてはあまり行われていない。（自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度の育成につながる。）
- 「浮きこぼれ」（学力上位層）への手立てが課題である。
- 授業参観やメンター研修を活用して、指導方法の共有や課題を解決する場を設定し、若手教員の育成・支援を行う。
- 自主学習の「個人差、学級差」が大きいため、全体で共有する場を設定する。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容⑤【4 誰一人取り残さない学力の向上】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究テーマに基づいた実践を日々の授業の中で積み重ね、授業研究及び研究協議会を通して学校全体で共有し、「個が輝き、共に育ちあう学級」のための実践研究に取り組む。 ○ 研究全体会や校内研修会を実施し、授業規律の統一や授業づくりの共通理解を学校全体で図り、教員の指導力向上に取り組む。 ○ 子どもが自分で学習方法を選択したり、学習内容を決めたりする授業づくりに取り組む。(個別最適な学び) ○ 友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする授業づくりに取り組む。(協働的な学び) 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年1回、全体で6回以上の授業研究及び研究協議会を実施する。 ○ 研究全体会や校内研修会を3回以上実施する。 ○ 校内調査における「自分で学習内容や学習方法を決めたり、選んだりしたことがありますか。」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を前年度以上にする。 【R6:46%】 ○ 校内調査における「授業では、課題を、学級の友達と話し合って学習することがよくありますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を前年度以上にする。 【R5:75%、R6:76%】 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業研究及び協議会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・7月4日(6年)、9月16日(3年)の2回実施した。残り4学年も2学期中に実施予定。 ・各学年で研究テーマに基づく実践を積み重ねている。 ・指導案検討会・授業研究・協議会・研究だよりを通じて学校全体での共有が進んでいる。 指標 6回以上に対して、現時点で2回。予定通り進んでおり、達成見込みである。 ○ 研究全体会・校内研修会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・4月28日：第1回研究全体会を実施。次期学習指導要領を見据え、育てたい子どもの姿・6つの研究テーマを共有した。 ・講師を招聘し、次期学習指導要領に関する講義を通じて研究の深化を図った。 指標 3回以上に対して、1回実施済み。今後の実施で達成見込みである。 ○ 個別最適な学び <ul style="list-style-type: none"> ・調べ方(教科書、本、インターネット)や学び方(個人、班、先生)など学習方法の選択する実践は多くみられる。 指標 44.2%であり、昨年度の46%以上を現時点でわずかに下回っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・実践は進んでいるものの、児童にとって「自分で選べる学び」として認識されていない可能性がある。 ○ 協働的な学び <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に全ての教員が協働的に調べたり、話し合ったりする活動を授業に取り入れており、対話を通じて学び合う文化が学校全体に根付いてきている。 指標 96.7%であり、昨年度の76%以上を大きく上回り、顕著な成果が見られる。 	
後期への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業研究・協議会を中心に継続的に各学年で選択した研究内容について共有し、学校全体で研究について深めていく。 ○ 研究のテーマに沿った講師を招聘したり、研究大会や研修会に参加する教員が内容を全体へ共有したりする機会を設ける。 ○ 学習方法の選択については各担当で実践を継続、共有し、主体的な学びにつなげていく。学習内容の選択については、自由進度学習など他校の実践例を参考に挑戦し、主体的な学びにつながるのかを模索していく。 ○ 話し合い活動を「量」から「質」への転換を図るために、問い合わせの設定や話し合いのスキル指導を充実させる必要がある。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容⑥【5 健やかな体の育成】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 主題的に運動に取り組み、授業の中で「できた」「(動きの質)がかわった」と実感し、個人の課題を明確にできるようする。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の初めに目標を提示し、最後に振り替える活動を行う。 ・NHK for school でお手本の動きを見て、動きのポイントを知つておけるようにする。 ・ワークシートにポイントを明示したり、ICT 機器を活用し自分の動きを可視化したりするとともに、友達の動きでよかつた点もふりかえられるようにすることを通して、動きの向上につとめる。 ○ 普段の休憩時間など、体育の授業時間以外の場において、体育の活動につながる多様な動きを取り入れ、体力・運動能力の向上につながるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・学級あそび、学年集会、きょうだい学年交流、たてわり班など ・運動委員会の活動の一環として行う。 ○ 準備運動、ストレッチなど実技研修を行う。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ○ 校内調査における「体育の授業の中で、できた、わかった、あきらめずに取り組んだ、(自分の動きの質が)変わったと感じられることがある」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を前年度からさげないようにする。 <p>【R5:95%、R6:95%】</p> ○ 運動委員会の活動の一環として、年2回、体を使った遊びを紹介し、運動委員会を中心とした遊びの時間を実施する。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ○ タブレットを授業に取り入れるなど、指導者、児童ともに指標に向けて着実に進められている。 ○ NHK for school を活用することにより、ポイントを視覚的に指導することができた。 ○ タブレットでフォームを録画し、振り返ることで次の授業へつなげることができた。 ○ チーム戦などではワークシートを活用することで、話し合い活動から運動が苦手な子へも積極的に活動への参加がみられた。 ○ 猛暑の中、外で活動する時間が減り、教室で表現運動を行った。 <p>(例えば、低学年では、物語方式で表現活動を行った。フォークダンスは動きを繰り返すので取り組みやすく、最後は発表会をして締めくくった。)</p> ○ 体力向上につながるよう、ドッジボールを毎日する学年など、外遊びも多くみられる。 ○ 教職員で遊具の追加選定を行い大型遊具の設置計画を立てることができた。 ○ メンター研修でストレッチ研修を取り上げた。 	
後期への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ○ ボールなどの道具の数を揃える。 ○ 猛暑時の活動量の確保はどうすればいいのか考える。 <p>(次年度)</p> ○ 各クラスに、なわとび、柔らかいボール、硬いボールに加え、ドッジビーを加えるのはどうか。 <p>(高学年になると、速い球が怖くてドッジボールに入れないのである児童もいる。柔らかく安全に参加できる物を加えてもいいのではないか)</p> ○ 異学年交流で体を動かすことを取り入れることを検討する。 ○ 低学年、運動場の体育が2クラス合同であるが、ボールや鉄棒など数が少ないため、次年度は1クラスずつ授業が行えるよう、時間割を検討する。 	

(様式2)

大阪市立野田小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、<u>年間授業日の50%以上</u>にする。（ただし、教育委員会事務局が定める学校行事等をＩＣＴ活用が適さない日数を除く） 【R5: 0%、R6:0.54%】 ○ ストレスチェックにおける<u>総合健康リスクの数値</u>を昨年度より減少させる。 【R5:131、R6:122】 ○ 教職員アンケート「<u>授業研究や学力向上支援事業等、さまざまな研修を通じて教師としての成長を感じるか</u>」において、<u>肯定的な回答の割合</u>を前年度より向上させる。 【R6:90%】 ○ 校内調査において「<u>学校は、子どもたちが安全で安心して学ぶことができるような教育環境づくりに努めていると思う</u>」の項目において、<u>肯定的な回答の割合</u>について前年度以上にする。 【R5:98%、R6:96%】 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容⑦【5 健やかな体の育成】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 保健だよりや学級指導を通して、健康に関する指導を行う。感染症予防のために正しい手洗いの方法を伝え、日常の指導を徹底する。 ○ 手洗いや清潔なハンカチを身につけるように、意識の向上を図る。 ○ 学校教育活動全体を通して、適宜、食に関する指導を行う。 	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ○ 保健だよりを年に 10 回以上発行する。 ○ チェックカードや手洗いの歌を活用した手洗い強調週間を学期に 1 回行う。 ○ 給食の時間に発達段階に応じて給食カレンダーの活用をし、給食がんばりカードを年に 2 回以上実施する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 保健だよりを計画通り発行し、学級指導でも健康に関する指導を伝えることができた。 ○ 1 学期の「手洗い・ハンカチW週間」では、委員会のポスターや放送での呼びかけ、また学級での指導によって意識が高まり、その結果、振り返りシートに「できた」と記した児童は、「手洗い」 93%、「清潔なハンカチ」 88% であった。 ○ 学校アンケートの「病気にならないように、しっかり手あらいをするようにしていますか。」に対して肯定的に回答した児童は 95.7%、その中で最も肯定的な「できた」と回答した児童は 72.9% であった。 ○ 給食カレンダーの献立やクイズを楽しみにしている児童も多く、食に関する興味をもたせることができている。 ○ 学校アンケートの「すききらいせず、給食を食べるようにならせていましたか」に対して肯定的に回答した児童は 94.1%、その中で最も肯定的な「できた」と回答した児童は 77.5% であった。 	
後期への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続き感染症対策として正しい手洗いと清潔なハンカチを持つように指導を続ける。特にこれからの中の時期の感染症予防として、手洗いうがいの必要性を強調して伝える。 ○ 残食は日によってさまざま。できるだけ減らすことができるよう、継続して声かけをしていく。 ○ 給食前に放送で「手洗いの歌」を流してはどうか。 	

<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容⑧【6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 心の天気の入力を各学級毎日行う。 ○ 各学年、SKYMENU（学習支援ソフト）を活用した学習を実施する。 ○ ICT機器の活用研修を行い、教職員のICT機器活用技術を高めて学習への活用を促進させる。 ○ 各教科の振り返りや自主学習でデジタルドリルの活用を進める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 心の天気の使用率を8割以上にする ○ SKYMENUを活用した学習を各学年で、3単元以上行う。 ○ ICT機器の活用研修を年間3回以上行う。 ○ デジタルドリルを年10回以上活用する。 ○ 校内調査において「授業では、一人一台パソコンをつかったり、タブレットをつかったりしていますか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を95%以上にする。【R5:94%、R6:94%】 	<p>進捗状況</p> <p>B</p>
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 心の天気の使用率が昨年度より向上しているが、達成には至っていない。 ○ SKYMENUをはじめ、ICTを活用した学習を計画的に行っている。 ○ 夏季休業中にICT機器の活用研修を2回行った。 ○ 校内調査（中間）では、「授業では、一人一台パソコンをつかったり、タブレットをつかったりしていますか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合が94.6%であった。 	
後期への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 心の天気以外はほぼ達成している。引き続き活用していく。 ○ 心の天気を入力するためのシステムやルール作りをしていく。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容⑨【7 人材確保・育成としなやかな組織づくり】 <ul style="list-style-type: none"> ○ I C T 機器の活用により業務の効率化と能率化を図り、勤務時間を短縮し、教職員が集まって行う会議を精選する。 ○ ゆとりの日を週に1回、実施する。 ○ 教職員の強みを共有する ○ 教職員間での組織開発研修を可能な限り実施することで、結果としての心理的安全性①話しやすさ、②助け合い、③挑戦、④新奇歓迎)の醸成をめざす。 ○ 中堅・ベテラン教師を講師としてメンター研修を行い、若手教員の指導力の育成を図る。 	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間の時間外勤務時間が 45 時間を超える延べ人数を昨年度より減少させる。 【R5:52 人、R6:21 人】 ○ 小学校学力経年調査の学級担任質問の「学級運営の状況や課題を学年等の教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる」の肯定的な回答の割合を昨年度より向上させる。【R5:73%、R6:90%】 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 4月から9月までの年間の時間外勤務時間が 45 時間を超える人数は 23 人である。昨年度を超えるペースになっている。しかし、時間外勤務時間の平均時間は、4月から9月まで、昨年度の平均時間よりすべて減少しているので、学校全体としては向上している。業務量の軽重を考慮しつつ、時間外勤務時間を減少できるように、さらにアイデアを出し、実践していく必要がある。ICT 機器の活用による業務の効率化、能率化と会議の精選は進んでいる。 ○ ゆとりの日は週に1回設定しており、効果的であるが、保護者対応等難しいときもある。 ○ 教職員間での組織開発研修は実施できていないが、学年・校務分掌を超えた対話(雑談も含む)は昨年度よりは増加している。つまり、心理的安全性の要素の①と②は増加していると考えることができる。 ○ メンター研修は計画通り実施できている。 	
後期への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 業務の効率化と能率化については、メンター研修などの情報共有化が考えられる。学年間はもとより、学校全体で有効な情報を共有していく(スキップや日常の対話など)。 ○ 教職員の強みや心理的安全性については、研修を行うことだけを考えるのではなく、情報共有をメインとし、機会ある度にお互いに価値づけを無理ない範囲で実施していく。 	